様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ２８ 日現在

機関番号：３２８２８
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｋ２３１３９

研究課題名（和文）中国・西双版納タイ族における「タイ医学」と女性の治療実践をめぐる文化人類学的研究

研究課題名（英文）A Cultural Anthropological Study of "Tai Medicine" and Women's Treatment Practices among the Xishuangbanna Tai Ethnic People, China

研究代表者
磯部　美里（ISOBE, Misato）

国際ファッション専門職大学・国際ファッション学部・准教授

研究者番号：９０７３８０７２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,200,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究では中国雲南省西双版納に居住するタイ族の「タイ医学」を事例として、男性の僧侶経験者、知識保有者を中心に担われてきた「タイ医学」の日常的な治療実践、特に女性の治療実践を検討した。
　具体的には、先行研究の整理、現地調査等での参与観察や資料収集をもとに考察や分析を行った。
　その結果、女性の民族医はほぼいないが、日常的な不調への対応として、家庭内では女性たちが家族や友人に手当てをしていること、これも「タイ医学」の治療法の一つであることが明らかとなった。これより、タイ医学には権威主義に基づく男性中心主義が見られるが、日常的な家族のケアや治療では女性が中心となっていることが指摘できる。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　近代医療においてはしばしば医療従事者のジェンダー差異が問題視されてきた。他方、伝統医学/民族医学におけるジェンダー差異や女性の役割とその意義についてはあまり検討されていない。
　本研究で明らかになったように、伝統医学/民族医学においても、正統な知識の継承者や医療従事者の中心をなすのは男性であるが、家庭内での治療まで範囲を広げれば、日常的な治療やケアの実践者は女性であった。つまり、本研究は、民族医学の治療やケアにおける女性の役割に光を当て、その重要性を再検討するという社会的意義を持ち、医療人類学に新たな知見を提供するという意味において学術的意義を有すと考える。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to examine the daily treatment practices of "Tai medicine," which have been carried out mainly by male monks and knowledge holders, and especially the treatment practices of women, which have been considered as a neglected area, using "Tai medicine" of the Tai people living in Xishuangbanna, Yunnan Province, China, as a case study.
　Based on this, this study organized previous studies, conducted fieldwork and other participatory observations, collected materials, and discussed and analyzed materials and data.
　The results revealed that although there are almost no female ethnic doctors, women care for family members and friends in the home as a response to everyday ailments, and that this is also one of the treatment methods of "Tai medicine". From this, it can be pointed out that although there is a characteristic male-centeredness based on authoritarianism in Tai medicine, women play a central role in the daily care and treatment of their families.

研究分野：文化人類学　地域研究(中国)　ジェンダー研究

キーワード：民族医学　ジェンダー　タイ医学　中国　女性　治療実践　タイ族　少数民族

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

(1) 中国の民族医学とその研究背景

医療人類学においては、土着の文化から生み出される疾病に関する信念や信条は民族医学（Ethnomedicine）と呼ばれ、これまで民族医学のシステムのあり方、近代医学が民族医学を包摂していくプロセス（医療化）、さらには医療現場や医療従事者、患者間で生じる権力関係、複数の医療体系が共存する様相など、さまざまな角度から研究が行われてきた。

本研究が対象とする中国の民族医学について言えば、日本の漢方の起源である中国医学のほか、タイ医学、チベット医学、モンゴル医学、ウイグル医学といった少数民族として識別された人びとを中心として担われる少数民族の医学がある。

これらの中国の民族医学(とりわけ少数民族の医学)は、1980 年代以降、本格的に研究が始まり、医学理論や治療法、薬草知識の収集および整理、専門書の刊行や研究施設や高等教育機関の設立が進められた。2000 年代以降、文化人類学/医療人類学的アプローチによる、調査、研究の成果が登場し、近年では、中国の民族医学研究は、国内外で注目を集めるテーマとして研究蓄積も厚い。

(2) 中国の「タイ医学」と本研究の問い

本研究で取り上げるタイ医学は、雲南省に居住するタイ族を中心に継承されてきた。2000 年あまりにおよぶ歴史をもつとされ、インドのアーユルヴェーダ、中国医学、タイ族の民間療法が結びつき、上座仏教の伝来によって発展したといわれる伝統医学である。

先行研究では、基本理論、人体解釈、薬草知識、治療方法などの文献の収集・整理、医薬品開発に力が注がれてきた一方で、この 10 年で当地のタイ族の治療実践に焦点を当てた学術研究も登場している。

中国の「タイ医学」の基本理論は仏教を源としており、人体解釈、薬草知識等が記されたタイ医学書は経典に含まれ、出家者が学ぶ知識の一つとなっている。上座仏教を信仰する調査地のタイ族においては、かつては、男児は 10 歳頃出家し、各村に設けられている寺で文字や経典を学び、20 歳ごろ還俗し結婚することが一般的であった。出家経験をもってこそ教化されているとみなされ、結婚する権利を得られると考えられてきたからである。他方、女性は出家が許されておらず、在家信者として功徳を積むことを求められる。このような男女の関係性は、「タイ医学」の継承のあり方にも反映されている。タイ族村落において 民族医となるのは主に男性であり、女性は「タイ医学」における知識体系の周縁に置かれてきた。

しかし、タイ族の女性たちは「タイ医学」の治療実践において受動的な存在なのだろうか。日常生活において傷病人に関与しているのは民族医だけではない。家庭内で、あるいは日常的に傷病人の健康回復を手助けし、痛みを和らげる行為も広義での治療実践とみなすことはできるからである。であるならば、女性たちの治療実践とは一体どのようなものなのだろうか。それはタイ医学にどのように位置付けられるのだろうか。それは家庭内における性別役割といかなる関係性にあるのだろうか。これらが本研究を始めるきっかけとなった問いである。

２．研究の目的

上述の研究背景に基づき、中国雲南省西双版納(シーサンパンナ)タイ族自治州のタイ族（Tai Lue）を事例として、これまで権威的知識体系の周縁に置かれてきた女性の治療実践を明らかにすることを目的とし研究を行なった。正統な民族医の陰に隠れ、注目されることのなかった女性たちの治療実践から人々と病気との関わり方について再検討することにより、重層的かつ複雑な民族医学の様相を見出すことが可能となると考える。

本研究の特徴は、傷病人の身体をめぐって、そこに関与するさまざまな人びとの行為を広く治療実践として検討する点、これまで等閑視されてきた女性の日常的治療実践に注目する点にある。

３．研究の方法

本研究は、以下のような研究方法で取り組んだ。

(1) 文献資料調査

中国のタイ医学については、上述のとおり、医学理論や治療方法についての文献や関連資料が多数出版、刊行されている。それらを収集するため、昆明市内、西双版納景洪市内の図書館、資料館、古書店、中国国家図書館や北京市内および中央民族大学内の書店、タイ・バンコクの書店などをまわった。それらの整理、分析を通して本研究の位置付けを明確にした。

(2) 中国・西双版納タイ族自治州での現地調査

本来は研究期間において合計 4 回の現地調査を予定していた。しかしながら、新型コロナウイルスの流行により、海外渡航が制限されたため、2019 年 11 月に実施した現地調査のみにとどまった。

現地調査では、医療機関での医療従事者、関係者、患者へのインタビューや参与観察、当地に暮らす人びとへのインタビューや彼/彼女らの語りの収集を行なった。

(3) タイ北部での現地調査

中国への渡航が難しい状況にあったため、2022 年 9 月、新型コロナウイルスによる渡航制限が緩和されたタイ北部にて現地調査を実施した。タイ北部には中国西双版納タイ族自治州から移住した人びとやその子孫が暮らしているため、調査地として選定した。

現地調査では、新型コロナウイルス対策の内容や施行方法、村落における担当者の役割、そこに見られるジェンダー格差に焦点を当て、医療機関での医療従事者、関係者、村落に暮らす人びとや民族医にインタビューや簡単な聞き取りを行い、新型コロナウイルス対策において家庭内で、あるいは当地の人びとの日常生活において、民族医学がどのように用いられているのかについて調査した。

４．研究成果

本研究を通して、主に以下の点を明らかにすることができた。

第一に、当地では、近代医療、タイ医学、漢方、民間療法といったさまざまな治療施設や治療方法が用途や状況に応じて使い分けられており、多元的医療体系の状況にある。

第二に、中国のタイ医学は男性の民族医が中心であるが、近年教育機関の育成プロセスを経由することで女性も民族医となることができるルートが登場していることである。

第三に、中国医学に起源をもつ民間療法であるかっさが当地では家庭内で用いられており、それはタイ医学の治療方法として民族医にも認められているものであった。

第四に、中国のタイ族においても、また、タイに居住する同系民族においても、村落内や家庭内で傷病者の手当てやサポートに従事するのは女性が中心であるということである。

第五に、新型コロナウイルス流行のなか、ワクチン接種が普及する一方で、タイ医学/民族医学に基づく対処法が、予防、症状緩和措置として用いられていたことである。

以下では、研究期間に発表した研究成果の紹介と合わせて、具体的に説明していく。

(1) 多元的医療体系

上述の通り、中国には近代医療のほかにも民族医学である中国医学、少数民族医学など、病気に対するさまざまな対処法が見られる。しかしながら、近代医療と中国医学、少数民族医学の政治的、社会的力関係は対等ではなく、近代医療と中国医学が中国の医療体系の中心を占める。

タイ医学が継承されてきた、タイ族が暮らす農村には、現在でも、いくつかの村落に一人は民族医がいる。入院設備の整った診療所を開設している者、看板のみ掲げている者、知人にのみ施術している者と、規模や治療状況は異なるが、師匠に弟子入りしタイ医学を学んだ経験を持つという点ではおおむね共通している。26 名のタイ医学の民族医にインタビューを実施し、患者や関係者に話を聞き、治療風景を見学したりそこで参与観察を行ったりした結果、患者は傷病の内容や治療費用、口コミや紹介など、さまざまな理由でタイ医学を選んでいることがわかった。さらに、人びとはタイ医学だけではなく、近代医療（病院）、僧侶や僧侶経験者による祈祷をも使い分けている。つまり、当地では、需要や事情に応じて、単独で利用したり、複数の治療方法を行き来したり、同時に利用したり、順番に利用したりという、多元的医療体系が持つ特徴が見られ、そこには必ずしも近代医療と少数民族医学の関係性に収斂できないような状況が生じている。

この内容は、2021 年の日中社会学会の研究会で報告し、そこでの意見を踏まえ、論文にまとめ投稿し、2023 年、『21 世紀東アジア社会学』12 号に掲載された。

(2) 民族医の継承についてのジェンダー格差と近年の変化

タイ医学において、民族医となるのは男性が中心である。ただし、調査の結果、村落内にも年配の女性の民族医（あるいは民族医とみなされる）が 2 名いることがわかった。その知識の継承について目を向けると、男性の場合は、師匠を見つけ弟子入りをするのに対し、女性は夫から（簡単な）治療知識を教授されたという特徴がある。言い換えれば、従来は、女性が「正式に」民族医となることはできないということである。

しかしながら、少数民族医学が中国の民族医学として政府から認められ研究が盛んとなり、専門の教育機関が設けられるようになったことで、学校教育を通して女性にも民族医となるルートが開かれた。結果として、大学等の高等教育機関で専門的に学んだ若い女性の民族医も誕生し、研究所や高等教育機関で働いている（現在のところ、村落内では治療に携わっていない）。

言うなれば、国家の教育体制の整備、強化によって、タイ医学におけるジェンダー格差の解消が進んでいるのである。この詳細は、2021 年刊行の『FAB』1 号に論文として発表した。

(3) かっさの歴史的展開と伝播

これまでの中国での現地調査から、かっさが当地のタイ族の治療方法/セルフケアとして利用されていることがわかってきたため、かっさについても研究を進めた。

その研究成果は、2020 年の日本現代中国学会第 70 回全国学術大会にて報告し、2021 年、関連論文が『Autres』12 号に掲載された。内容を簡単に説明すれば、かっさは、最古の医療器具であ

る新石器時代の砭石にルーツを持ち、それは中国医学の鍼治療の原点である。歴史的に見ると、「さ（やまいだれに沙）」や「刮(かつ)」が指し示すものは変化の途を辿り、「さ（やまいだれに沙）」は虫から砂石を経て治療後に出てくる紫斑へと移行し、その命名も沙症から沙病、さ（やまいだれに沙）脹、さらにさ（やまいだれに沙）病へと変化を重ね、「刮」が対象とする箇所も首や腕から背中へと拡大した。一時は治療法として盛行したが、西洋医学の流入や普及とともに一民間療法となった。1980 年代以降、健康と結びつき、その適用範囲を拡大させることで、かっさは手軽な一治療法として中国で人気となった。他方、かっさは日本にも鍼治療として伝播したが、近年では、美容のためのセルフケア方法として注目されている。日本では、紫斑を示す「さ（やまいだれに沙）」ではなく、こすることを意味する「刮」を重視するという特徴があり、中国とでは違いも見られる。

(4) タイ族女性の家庭内での治療実践

かっさはタイ医学にも影響を与えたようである。中国のタイ医学の民族医もこれをタイ医学の一治療法であると認めているが、民族医は自らこれを用いることはせず、実際の実践者は女性たちであることが本研究で明らかとなった。その研究成果については、2020 年の日本現代中国学会第 7 回全国学術大会で報告し、現在、論文を準備中である。

タイ族の女性たちは、不調、例えば、めまい、頭痛、熱中症、飲み過ぎ、喉の痛み、肩こりなどの際に、家族や友人に対しかっさを行っていた。タイ族の習慣として、風邪の症状がある場合、卵や銀製品等を包んだ白布で体を擦るジェットフと呼ばれるものがある。「さ（やまいだれに沙）」を出すのではなく、悪いものを銀製品に移して身体を整える方法である。おそらく、家庭におけるタイ医学的対処法（儀礼）があって、そこに中国医学の民間療法であるかっさが入り、それが混合されているのではないかと推察するが、これについては今後さらなる研究が必要である。

女性から家族あるいは友人へとかっさをする本研究の事例からは、タイ医学における治療実践において、女性もまた、家庭やプライベート空間という場で関与していることが指摘できる。ケア労働の先行研究で指摘されてきたように、タイ族の場合も、日常的な人びとの営み、家族の健康管理を支える、言い換えれば、ケアの担い手は女性であることがわかった。

(5) 新型コロナウイルス流行下でのケアと民族医学の使用

タイでの現地調査では、当地の伝統医学が中国とは異なる様相を呈しており、日常的にはあまり実践されていないことが判明した。そこで、コロナ禍における村落内での対応やそれを担う人びとの役割、伝統医療との関わりを調査することに焦点を絞って調査を進めた。

調査を通して、近代医療とともに伝統医学がコロナ対策として国家の方針のもとに用いられていること、村落内での公衆衛生業務を担う人びとがコロナの感染予防においても活躍していること、その公衆衛生業務の中心にいるのは女性であることなど、コロナと村落の公衆衛生、伝統医学とジェンダーをめぐる状況や関係性について、一定の知見を得た。これに関しては、現在、分析や考察を進めており、今後、学会での報告や学術誌への論文投稿を行う予定である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計3件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 磯部美里	４．巻 12
２．論文標題 「刮さ（かっさ）」の歴史的展開とその特徴ー中国と日本の潮流を中心にー　＊「刮さ」の「さ」は「やまいだれ」に「沙」	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Autres 多元文化研究	６．最初と最後の頁 39-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 磯部美里	４．巻 1
２．論文標題 ジェンダーから見る「伝統医」の継承と創出：中国・西双版納タイ族の「タイ医学」を事例として	５．発行年 2021年
３．雑誌名 FAB	６．最初と最後の頁 203－215
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.50820/00000060	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 磯部美里	４．巻 12
２．論文標題 中国の民族と医療ー西双版納タイ族における多元的医療体系を事例としてー	５．発行年 2023年
３．雑誌名 21世紀東アジア社会学	６．最初と最後の頁 34-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20790/easoc.2023.12_34	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計5件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 磯部美里
２．発表標題 中国の医療人類学に関する研究動向-民族医学を中心に-
３．学会等名 国立民族学博物館共同研究会『社会・文化人類学における中国研究の理論的定位―12のテーマをめぐる再検討と再評価』
４．発表年 2021年

１．発表者名 磯部美里
２．発表標題 中国の＜民族＞と医療：西双版納タイ族における多元的医療体系を事例として
３．学会等名 日中社会学会オンライン研究会『特集 東アジアにおける＜民族＞という視点から』
４．発表年 2021年

１．発表者名 磯部美里
２．発表標題 中国の「タイ医学」と女性の治療実践－西双版納タイ族における「刮さ」を事例として　　＊「刮さ」の「さ」は「やまいだれ」に「沙」
３．学会等名 日本文化人類学会第54回研究大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 磯部美里
２．発表標題 西双版納タイ族のタイ医学における治療とケアの実践ー刮さの事例を中心にー　＊「刮さ」の「さ」は「やまいだれ」に「沙」
３．学会等名 日本現代中国学会第70 回全国学術大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 磯部美里
２．発表標題 「かっさ」から見る中国の伝統医療：非漢族地域での継承と展開
３．学会等名 日本現代中国学会第69回全国学術大会
４．発表年 2019年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関